



GLAST隊員養成研修講師：添田慎介・高橋勇輝・小池一馬（以上、医事課）
 佐藤忍（経営企画課）、石坂好巳（看護部）
 大嶋清宏（救命救急センター）、群馬病院DMAT隊員

背景と目的

大規模災害時に群馬大学医学部附属病院は、限られた医療資源の中で、多数の負傷者に対し、最大多数に最良の医療を提供することが求められる。そのためには、情報収集、関係外部機関・院内各部署等との連絡調整、患者さんやご家族、職員の安全確保など、医療以外の全てを担当する業務調整（ロジスティクス）担当職員が存在が必要不可欠であるが、当該職員（特に事務職）が、災害医療に関する知識を十分に持っているとは言い難い状況である。

今回、災害時にロジスティクス担当職員として、積極的に活躍できる職員を養成するため、群馬大学災害時業務調整担当職員養成プログラム、通称「GLAST隊員」養成研修を企画した。

取り組みと結果

<研修参加者>

募集

対象者：群馬大学医学部附属病院に勤務する職員（職種を問わない）及び群馬大学に勤務する職員

応募

院内、その他キャンパスに募集したところ、8名から応募

決定

応募者全員を参加者とした
 参加者内訳：事務職員6名（うち1名大学本部勤務者）
 医師1名、理学療法士1名

<講師>

- ☆救命救急センター長
- ☆DMAT隊員（看護師、業務調整員）
 ※インストラクターとしても協力
- ☆防災担当事務職員



<研修内容>

回数	内容			
第1回	災害医療概論、医師の求めるGLASTの役割など	座学	広域災害救急医療情報システム、群馬県統合型医療情報システムについて	演習
第2回	災害拠点病院と学内関係規則	座学	通信機器（衛星電話、無線機）の取り扱い	演習
第3回	災害時におけるGLASTの役割	座学	頻出医療用語とSTART法、トリアージタグの書き方	演習
第4回	東日本大震災での保健活動（特別講演）	講演	経時活動記録（クロノロジー）の書き方	演習
第5回	看護師が求めるGLASTの役割	座学	災害対策本部の構築	演習
第6回	大規模災害時の多数傷病者受入訓練（トリアージ訓練）			

※第2回～第5回において、前回研修内容について的小テストを実施し、獲得した知識を確認した。

<研修結果>



災害医療概論（第1回）



無線機の取り扱い（第2回）



START法、トリアージタグ記載法（第3回）



災害対策本部の構築（第5回）



研修後に実施したトリアージ訓練では、災害対策本部や各エリアにおいてGLAST隊員（矢印）が活躍した。



トリアージ訓練終了後に、修了式を実施し、救命救急センター長から修了証を授与した。その際のDMAT隊員との集合写真。DMATとGLASTの連携は、大規模災害における当院の傷病者受入時に有益であると考えられる。

アンケート結果より

- ◎実際に災害が起きたときも、パニックにならずに対応できるような気がします。少しでも知識があるというのは安心感にもつながると感じました。
- ◎災害対策の基本を始め、多くのことを学ぶことができました。災害現場でないところでも活用できるスキルも多くあったかと思います。
- ◎非常時に求められる事務の役割がとても広いことがわかり日頃からの心構えや備えの必要性に気づくことができました。
- ◎もっと積極性や調整力を身に付けなければならないという意識ができました。

考 按

大規模災害時における傷病者受入時にいかに活躍できるかを念頭に企画した結果、日常業務におけるスキルアップにも繋がる可能性が示唆された。そこで今後は、大学の新規採用職員や2～3年目の若手職員向けのスキルアップ研修の一環として実施することにより、本研修を病院のみならず大学全体に広げ、災害対策プラスアルファの研修を検討したい。

謝 辞

本研修を企画するにあたり、長崎大学病院災害対策本部要員養成研修（UNLOST隊員養成研修）を参考にさせていただいた。